

グリーン四国

No.1263
2025年
6月号

「令和7年度梶原令和の 森林づくり(植樹)」への参加

【詳細は2頁】



工石山 ハイノキ

目次

- ・ 令和7年度梶原令和の森林づくり(植樹)への参加 2
- ・ 固有種トキワバイカツツジの開花状況調査 3
- ・ 八面山登山口から三本杭登山ルート間の国有林の維持管理と機会を捉えて
登山者との対話 4
- ・ 滑床溪谷森とも登山を実施 4
- ・ 職員で林道整備を実施しました 6
- ・ 歩行型地上LiDAR(3次元レーザースキャナ)による立木位置図・微地形図
の作成 7
- ・ 新規採用者研修をうけて 8



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

T E L 088-821-2052
H P <https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

令和7年度 梶原令和の森林づくり(植樹)への参加

(四万十森林管理署)

4月29日、高知県高岡郡梶原町井高地区の民有林において、「梶原令和の森林づくり」と題して植樹活動が行われました。

本植樹活動は、令和3年度より、「人が森林に入り、本来の森林の恵みを享受するとともに、森林の構成員としての視点を取り戻しながら、日本の森林再生に取り組む」とをコンセプトとして、今回で5回目の開催となります。

当日は、開催以来初めて、五月晴れの空のもと、総勢146名(内、スタッフ25名)が参加し、四国森林管理局及び四万十森林管理署からは近藤森林整備部長をはじめ15名が参加しました。

開会式では、主催者である「梶原町森林づくり会議」の土釜清会長及び吉田尚人梶原町長の挨拶に続き、来賓を代表し、高知県林業振興・環境部の坂田省吾部長より、森林の現状と自然再生への取り組みについて紹介がありました。

今回の植樹は、参加者を植栽地の各ブロック毎に割り当て、それぞれのブロックに役場職員や森林組合職員等を配置し、一般参加者はサポートを受けながら植樹を行うといった方法で実施されました。

快晴の空の下、傾斜が急な場所もありましたが、前日の雨の影響も少なくスムーズに気持ちよく植樹を行うことができました。

参加者からは、「晴れたおかげで寒くなかった」、「晴れたおかげが多くの方が参加してくれたので、例年より植樹に時間がかからなかった」、「楽しく1本ずつ丁寧に植樹できた」といった感想がありました。

今回の植樹では、梶原町の名前の由来となった「イスノキ」、梶原町内で子どもたちが拾ったどんぐりをスRedo(いきりかぶ)苗木園)が育苗した「クヌギ」、「コナラ」、「シラカシ」に「オニグルミ」を加えた5種類の広葉樹を506本(内、記念植樹用5本)植栽しました。

当署としましても引き続きこのような森林づくり(植樹)等を通じて、地元の方々と触れ合える取組に積極的に参加していきたいと考えています。



固有種トキワバイカツツジ の開花状況調査

〔計画課〕〔技術普及課〕〔愛媛森林管理署〕
〔四万十川森林ふれあい推進センター〕

四万十川森林ふれあい推進センターでは、愛媛県南部にのみ自生する固有種トキワバイカツツジの開花状況調査を平成29年から毎年満開の時期に行っています。

調査は、20本の固定木について、満開日を予測して調査日を設定し、開花数・生長量等を記録するものです。

今年、4月25日に四国森林管理局計画課と技術普及課及び愛媛森林管理署の職員、総勢10名で調査を行いました。

昨年はほぼ散りかけた頃の調査となつてしまった反省から、今年は3月下旬から本調査の日程調整のための事前調査を当センターで数回にわたって行い、また、宇和島市の過去3年間の2月以降の積算温度のデータと比較しつつ、蕾の大きさや色付き具合の変化なども観察した結果、今年が開花時期が一週間程度遅れ

ていると判断し、調査日を設定し実施しました。

調査当日には比較的日当たりの良い箇所、固定木はほぼ満開を迎え、林道の法面一帯が、淡い紫色やピンク色に染まり、その希少で可憐な存在感を放っていました。

今年の開花数・生長量については、過去の調査結果と比較したところ例年よりやや花（蕾）の数が少ない結果でした。造林木などの上層木の影響で日当たりの劣る箇所では、まだ色付きもしていない緑色の蕾が多数ついた状態の個体もあり、自生している標高や土壌、斜面の向きといった条件は同じであっても、周辺の森林環境や個体差によって満開度に差がありました。

また、個体によっては全体の上部にのみ花が付いているものや、一部の枝のみ沢山の花が付くものがあり、さらに殆どの花色は薄紅紫色なのですが、なかには、ほぼ白色の花が占める珍しい個体もあります。

周辺では二ホンシカによる食害が続いており、当センターでは、平成24年度からシカ剥皮被害防止ネット（単木保

護用ラス巻き）でトキワバイカツツジを単木保護する取組を行うとともに、定期的な巡視を行い生育状況等を注視しているところです。

今後も、関係者や愛媛森林管理署の協力も得ながら、希少種でもあるトキワバイカツツジの生育環境を維持・保全できるよう、継続的な調査や巡視を実施していきたいと考えています。



可憐な花を咲かせるトキワバイカツツジ



調査の様子



R6とR7の経過の違い

八面山登山口から三本杭登山ルート間の 国有林の維持管理と機会を捉えて 登山者との対話

〈四万十森林ふれあい推進センター〉

○概要

当センターが、各教育機関等からの要請で実施する体験学習の主要なフィールドの一つである黒尊・滑床エリアの登山道は、愛媛県側の八面山登山口から八面山（1,165m）と大久保山（1,158m）を経由し、ブナ林を通って、三本杭（1,226m）に至る約3kmを往復するコース（別図のとおり）で天候等の条件が整えば九州までも一望できます。

○内容

この体験フィールド内の、滑床山国有林2067林班（愛媛森林管理署管内）は、ブナ、ミズメ、カエデ類からなる約200年の天然生林で、足摺宇和海国立公園（第二種特別地域）に指定されるなど、多様な自然にめぐまれており、毎年度数件ですが、学校等の要請による、大久保山やブナ林への児童生徒の案内や樹木学習と、幡多農業高校グリーン環境科3年生や南予森林アカデミーの研修生を三本杭に案内し、森林体験学習や国

有林で取り組んでいる自然再生事業などを題材に現地での作業体験研修をしています。また、この登山道沿いには、周辺の植生保護のため当センターが設置した鹿防護ネット柵（令和6年度末総延長5,620m）があり、点検・整備を定期的に行っています。そして、四季を通して県内外から三本杭登山やトレッキング等で訪れる方々から、聞き取りをさせていただくことで、貴重な情報を得られる場合もあることから登山者との対話する機会を常に重要視しています。

○おわりに
当センターにおいても、鹿防護ネット柵設置箇所を通過するための出入りゲートの点検や、登山道の支障となる枯れ木や倒木の除去、歩行時の転倒や踏み外しを防ぐための配慮など、愛媛森林管理署と協力しながら進めていきます。



三本杭登山ルート図



熊のCOL付近の登山道で、登山者との対話の様子

滑床溪谷森とも登山を実施

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

○概要

5月29日、愛媛県松野町立松野東小学校全校児童33名が滑床溪谷（国有林で足摺宇和海国立公園内）で、隔年実施の学校行事「森とも登山」を行いました。今回も学校から森林環境教育の要請を受け、環境省土佐清水自然保護官事務所及び滑床ビジターセンター万年荘と連携して実施しました。

○実施内容

午前中は、春の静かな小雨の中、万年橋（標高340m）から、日本の滝百選にも選ばれている雪輪の滝（標高530m）を目指して往復約3km、高低差190mの登山を行いました。

往路は、溪谷右岸の遊歩道沿いの樹木などを学習しながら、清流と滑らかな岩肌が作り出す多様な変化や森林の緑など自然の美しさや雄大さに触れました。溪谷の見所は数多く、鳥居岩では、漫画の「鬼滅の刃」を連想させる二つに割れた大岩や出合滑の川床いっぱいに広がった大きな花崗岩の一枚岩などに出会いました。雨も、

遊歩道の大き木が大きな傘となつて受止め、水滴はあまり落ちて来ません。そして、約一時間で、雪輪の滝に到着し、滑らかく大きな岩肌を流れる水が、まるで雪の輪のような波紋を残しながら落下する様子を目の当たりにしました。

復路は、左岸の滑床林道を下りながら、五感を使って自然の宝物を探すネイチャーゲームの「フィールドビンゴ」などを行いました。また、下山中にはモモンガや両生類のアカハライモリ・カジカガエル・ツチガエルの他、サワガニなどに多数遭遇でき、みんな貴重な体験ができて少し興奮していました。森林に響く鳥のさえずりや雄のカジカガエルが放つ「フィー、フィー」と鹿の様に高く澄んだ鳴き声、緑のシャワーを浴びながら自然とふれあい、万年橋まで約一時間で無事に帰ってきました。

午後からは、万年荘内で、校長先生から「森とも登山」の森ともの意味についてのお話、そして、環境省土佐清水自然保護官事務所の小林皆登さんと萩野新子さんから、「足摺宇和海国立公園の紹介とこの地域のことについて」と

題しての児童と対話形式の講話があり、国立公園は珊瑚とかけ35箇所あるとの説明などがありました。また、万年荘の井上重人支配人から、「新しくなった施設の紹介や、これからもみんなにたくさん利用してもらいたいこと。森林は、水や土、生き物の物質循環を通してとても大切な働きをしていること」を説明していただきました。

その後、長机や椅子が配置してある万年荘の屋外テラスにおいて当センターが準備した、「便利なスマホ台」作りをしました。使っているキットのパーツは4種類で、松野町の特産品がウナギであり、滑床溪谷がある目黒川は四万十川の支流であることから、四万十市のゆるキャラ「アチチウナギのしまッチ」をメインにした下絵を描いた板はスギ、三角の角材はヒノキ、スマホを載せる板はキリを使っています。完成するとスマホやタブレットも載せられるように、軽い木、重たい木などの絶妙なバランスを計算して当センター職員が板や角材を加工して手作りしたものです。また、メモをはさめる木製ピンチは既製品を調達しました。児童達は、「メッチャ楽しい。」と言って、ほのかに香る木の香りや肌触りの

良さを感じながら、色を塗って仕上げました。

〇おわりに
児童の代表より「いろいろな体験がとっても楽しかったです。滑床の豊かな自然をこれからも大切にしていきたい。どうもありがとうございました。」とお礼の挨拶がありました。

当センターとしても、今回の体験が、自然や森林への興味や理解につながっていくものと考えています。



森とも登山の様子(雪輪の滝付近)



土佐清水自然保護官事務所のお話を聞く様子



完成したよ



しまッチ等製作の様子

職員で林道整備を 実施しました

（徳島森林管理署）

四国地方が梅雨入りし、災害への警戒を一層強めるべき季節となりました。近年では、地球温暖化による気候変動の影響で、局地的豪雨が増えており、林道への被害も例外ではないことから、6月11日に当署健康安全協議委員会に若手職員も加わり、管内の三好市東祖谷に在る霧谷林道に設置している排水施設の点検・整備を行いました。

当日は、小雨の降りしきる中で、雨具を着ての作業となり、慣れない手つきで鍬やスコップを手を持ち、頭からは汗をかきながら作業を行いました。降雨時に山から流れ出る水がどのように流れているのか、また林道の排水施設がどのような機能を發揮しているのかなど、普段官用車で走行しているときは気が付かないことを改めて実感したところです。

今後は、台風等による集中豪雨が起きる可能性が高くなりますが、林道の被害は降雨による山中からの出水や路面水が原因となり、斜面の崩壊や路肩の決壊が発生するケースがほとんどです。

このため、日頃から林道を走行するときは、排水施設等の状況に変化はないかなど意識して林道の災害未然防止に少しでも貢献できればと思います。

ちなみに、翌日には大多数が筋肉痛になるなど普段の運動不足を実感するいい機会となりました。



横断溝の土砂取り除き状況

入林される皆様への注意事項

- 国有林に入林する際には、以下の事項について注意してください。
- ① 草木やキノコなどの採取、樹木の伐採や損傷をしないでください。
 - ② 自然保護などのために立入が制限されている箇所へは入らないでください。
 - ③ ゴミは持ち帰りましょう。
 - ④ 枯木や枯れ枝は危険ですので、近寄らないでください。
 - ⑤ タバコなど火の取扱いには十分注意してください。
 - ⑥ 林道は未舗装箇所が多数あります。通行の際はご注意ください

登山は自己責任です。天候や登山情報を確認し、十分な装備で入山してください。また、ご家族へ行き先を告げるとともに、登山目的地を管轄する警察署等へ登山計画書を提出してください。

歩行型地上LiDAR(3次元レーザースキャナ)による 立木位置図・微地形図の作成

森林総合研究所四国支所流域森林保全研究グループ 齋藤和彦

2024年12月に地上LiDAR「Marty LA03」(図1。以下「LA03」)を導入しました。目的は四国および近畿中国森林管理局管内の国有林に設置された人工林収穫試験地の立木位置図と微地形図を作成することです。どの機械もそうですが、導入直後は、現場でその機械を使って試行錯誤し、マニュアルには書かれていないノウハウを蓄積することになります。以下では、その一端を紹介します。

今回導入したLA03は、使用者が背負い、歩きながら線的に計測する歩行型地上LiDARです。歩行型は、点的に計測する据置型より多方向から対象物にレーザーが当たるので、立木位置や微地形の計測において有利と考えられます。図2の例では、25cmメッシュの詳細なDMGが生成できました。計測時間は約30分でした。図2では湧水や崩壊の起点となる0次谷が現れており(図中の↓)、歩行型地上LiDARの威力が確認できます。

ただ、歩きながら計測することとは歩行型地上LiDARの弱点でもあると思います。LA03のマニュアルは、計測にあたり約10m間隔で平行に折り返して歩くよう指示しています。これが中々難しく、LA03の操作端末(スマホ)の経路表示は遅くて頼りにならず、いつも登山用コンパス(図3)を使って方位を決め、歩いていきます。それでも図2のように急傾斜地(図中の黒線は1m間隔の等高線)や障害物(倒木があった)、すり鉢状の谷や鞍状の小尾根があると平行に折り返して歩くことが難しく、経路(図中の黄線)の間隔が開いたり挟まったりします。

LA03には、この他、一つの調査区画の計測が複数に分かれた場合の点群データの接合、DMGの隙間や立木の測り漏れが生じた場合の対処、計測結果を実空間に対応させる方法等にも課題があると考えています。今後、これらを含め、新たなノウハウが蓄積できたら、また情報共有したいと思います。



図1

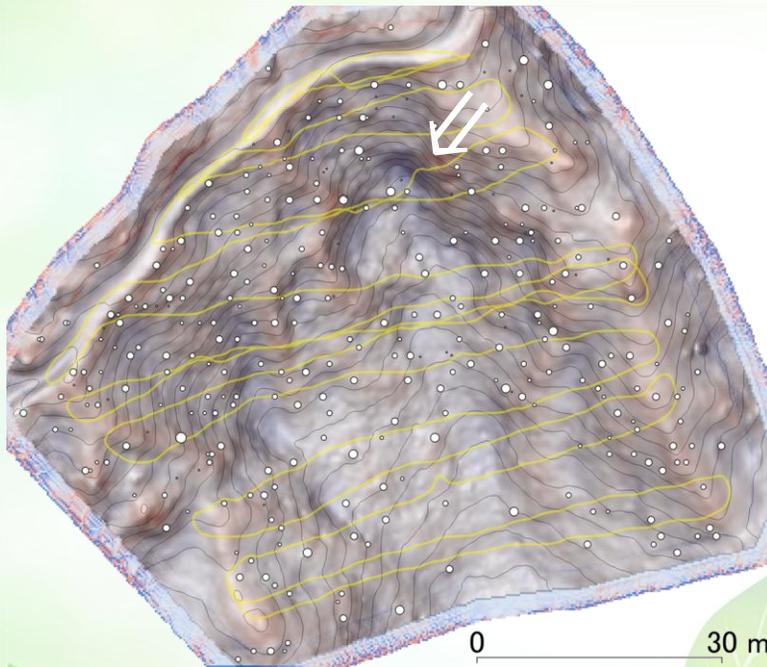


図2



図3

新規採用者研修をうけて

嶺北森林管理署 岡本 由惟

5月12日から16日にかけての5日間、令和7年度新規採用者研修が局内で実施されました。今年度は高卒者4名、大卒者8名、選考採用者5名の計17名が研修に参加しました。

研修では局の各課担当係の方々からご講話いただき、各課の業務内容について詳しく知ることができました。それぞれの課の仕事内容を知るのにはほとんど初めてでした。私は入社前から森林教育を通して子供や女性にも林業について知ってもらおうような活動に興味があったので、特に技術普及課の仕事に興味深く感じました。

自身の業務外の内容について知る機会が無かったため、今回その他の部課の業務内容に触れて局の仕事の全体像が分かったような気がしました。特に私が携わっている経理の業務はすべての課の予算や給料を管理する部署なので、経理が支払いの手続きをしないことと山を保全することも伐採することでもできなくなると分か

りました。そのため経理の予算を管理する仕事は、各課の契約ができるように進めていくための重要な役割であると知ることができました。全体を知ることで自分ができる部分に携わっているかがより具体的に変わったことで、組織への帰属感が強まったと思います。

3日目にあった嶺北署管轄の工石山への植生調査を行いながらの登山は天候にも恵まれて、全員が時間内に登頂・下山をすることができました。珍しい植生で変わった見た目の木が沢山あり、私が特に印象的だったのは網状に生えているように見えた「ひのき風倒根」でした。その他にも根が倒れ、地表にむき出しになっっている木や傾斜に沿って伸びている木など不思議な生え方をしているものも多くありました。花や生き物も多く歩くだけで発見がある山道だったものの、3時間以上も歩いていたため先頭の集団に追いつくのがやっとでなかなか景色を楽しむことができなかったのが少し残念でしたが、やっとの思いで着いた北の山頂やひのき屏風岩から見た景色は絶景だったし、下山した

後の充実感や自信は自分の中で大きな経験と自信になったと思います。

3日目の登山の感想が多くなっていました。どの部署でも仕事をしてみたいという気持ちになりました。実際は楽しいことばかりでは無いと思いますが、概要に関心を持っていくことは、自分がやりがいをもって働ける職場に入れたのだと確認し、改めて採用いただけたことを大変有難いことだと思えました。これから先自分のキャリアがどうなっていくかは分かりませんが、なるだけ沢山の経験ができるよう頑張り、今度は自分が下の世代に伝えられるようになっていけば嬉しいです。



森を切り撮る。未来につなげる。



四国の山 写真・動画 コンテスト 募集中!!

募集期間

令和7年7月1日～令和7年9月30日

(1)写真部門

①四国の山々の風景

森の絶景・森から見える眺望・巨木など森の風景

②山で働く人々

森林内で行われる作業などの生業・営み

③森林の動植物

森林で育まれる動植物

(2)動画部門

写真部門のテーマなど、森林の魅力をとらえたもの

詳しくはWebで

四国森林管理局

検索

コンテストの詳細



主催：林野庁 四国森林管理局

後援：(一社)日本森林技術協会 (一財)日本森林林業振興会高知支部 (一社)四国林業土木協会 四国国有林森林整備協議会

(一社)高知県山林協会 (公社)徳島森林づくり推進機構 (公財)かがわ水と緑の財団 (公財)愛媛の森林基金

(公社)高知県森と緑の会 徳島県森林組合連合会 香川県森林組合連合会 愛媛県森林組合連合会 高知県森林組合連合会

※順不同